「平和と人権」市民ネットワーク情報　N019-11

事務局発行(℡ 0557-45-1182)　http://peaceito.moo.jp　2019.11/17

# 11/9「沖縄スパイ戦史」来場者 160 名！

11 月 9 日「ひぐらし会館」で、三上智恵・大矢英代監督の「沖縄スパイ戦史」を上映しました。この映画は 2019 年度文化庁の記録映画部門優秀賞に選ばれた作品です。しかし、74 年前の沖縄戦の裏戦史を描いた「地味な」ドキュメント映画に、どれだけの人が集まってくれるか不安がありました。蓋を開けてみるとお年寄りから若い人まで、中学生も含めて 160 を数える人が来場し、ホールを埋めました。実行委員会を構成した関係団体・個人の尽力のおかげです。と同時に、辺野古基地建設に象徴される日米軍事同盟強化にたいして、「沖縄はどうなるのか」「日本は戦争に進むのか」といった不安と危機感が－改憲の動きと絡んで－広がっていることの現われではないか、と思われます。

映画の前半は沖縄戦でゲリラ兵に組織された少年たちが、米軍の偵察やスパイ活動に駆り出されたあげく、衰弱し見捨てられ殺されるさまを描きます。後半では波照間島の住民が教員に成りすました陸軍中野学校卒の諜報員の命令で、西表島に強制移住させられマラリアで命を落とします。住民が飼育していた千頭を超える牛や山羊は軍隊の食糧にされました。「軍隊は住民を守らない」「軍隊のあるところが戦場になる」という監督のメッセージが、過去の戦争を通して今に伝わって来ます。

上映に先立って昨年沖縄を視察した伊東の青年たちが、現地で何を見、何を考えたかをスライドを使って報告しました。次の派遣のため会場カンパを募り 5 万 5 千円を頂きました。合わせて、首里城再建のカンパに 3 万 3 千円を頂きました。驚くほど多額のカンパが寄せられました。厚く御礼申し上げます。　(文責　三好康昭)

# 寄稿「沖縄スパイ戦史」から学ぶ　小田あつみ

「国体護持」は今日も強く生き続いていると痛感した。周辺国を侵略し殺しまくった挙句、終末期に攻撃されると「国を守る」ために「沖縄を防波堤に」した。過去ではない、今なお続く沖縄蹂躙。「人権」とは無縁の優生思想が消えない日本は国際社会で愚かで遅れた社会の代表になれる。

「住民同士監視させる、殺さないと殺される」と思い込む、これはナチスの歴史にもある「人間の心理」研究の利用。誰もが陥る程効果がある。村八分・いじめ・ハンセン病の歴史など至る所に見え

隠れし現代社会にもある。「人間関係」を信頼と連帯で共生できる社会にしたいものだ。研究者の意識も重要。

戦争は人を「敵か味方か」また味方同士も「生きる価値ある人とない人」に区別する。「殺し合う」凄惨さのみならず「人間の平等」の価値破壊が怖い。大勢に従順になって生き延びるか、自分の信念を貫き「排除や差別」にめげず孤立を恐れず抗するか厳しい選択を突きつけられる。世界各地で「戦利」を求めて殺し合いは絶えない。前線で戦う人の現実を我が事と考えない私たちが戦争を支持しているともいえる。想像力を働かせ「NO」の声を出そう。戦争の教訓を伝えていこう。

「沖縄の人々は殺されたのに隊長は生きている」誰も責任をとらず理不尽極まりない。彼ら軍隊の生き残りが戦後日本を形成してきたのではないか？忘れるな！軍隊が守るのは「国体」だ。誰もが尊いはずの命の価値を「国体」で誤魔化すな！国体よりも「私の価値を守る」為に反逆者となってやろう！！

戦争の秘密が 70 年後にしてようやく少しずつ暴かれている。「少年兵・スパイ作戦」など多くを知り、深く考える機会となった。

## アンケートの回答、紹介

**Q1　視聴しての感想やご意見、質問などをおかきください。**

A さん…映画を作られた監督に敬意を表します。「軍隊は国民を守らない」…考えれば誰でも解かることが政府のまやかしで簡単にだまされてしまう。そこを何とかしなければ、と思います。

B さん…沖縄の基地問題を日本の問題として考え、二度と戦争にならないようにしたい。なぜ基地を認める政府ができるのか。選挙で正しい方向を見て欲しい。

C さん…戦争の悲惨さと、戦争は何も生まないことを痛感しました。歴史教育の見直しが本当に重要だと思います。

D さん…「戦争は繰り返してはいけない」を改めて強く思った。基地があるから攻撃されるー本当にそうだと思う。もっと報道すべき。

E さん…どうして、いつまでもたくさんの秘密が隠され続けるのか？国とは、敵とは何？他人任せの生活になっていて、考えることをしないのが当たり前になっている怖さを感じた。今でも陸軍中野学校を始めとする軍国思想と準備が続いているのではないか。

F さん…心にしみる映画でした。残酷な映像は戦争の恐ろしさをリアルに伝えて胸に迫ります。重たい映画でしたが、目を背けてはいけない現実だと思います。

G さん…アベ政権は産軍複合体国家をめざしています。「真実は汝を自由にする」

H さん…戦争には絶対反対です。自衛隊が美化されていくことに不安を感じます。

I さん…多くの人が虫けらのように殺された実態をもっともっと多くの方々に知って欲しい。

**Q2　今後の運動で「こんなことをやったら」という提案があれば…**

J さん…「ｉ－ 新聞記者ドキュメント」の上映を希望します。

K さん…安倍(首相)の花見の会の、立案から現在までのドキュメンタリーを作ってください。

**※このほかに沢山の回答が寄せられましたが、紙幅の関係で掲載できませんでした。全文は市民ネットワークのホームページ・「平和と人権」市民フォーラム に紹介しました。**

安倍九条改憲 NO！憲法を生かす 3000 万署名の成功を！

# 市民アクション通信

No.21
2019.11.17

発行 ＝ 安倍九条改憲NO！伊東市民アクション
署名集約先：伊東市職労付　〒414-0046 伊東市大原 2-1-1　Tel.0557-37-9134　Fax.0557-37-1347

## 3000 万署名の経験を話そう（後半）

### －10 月 9 日荻地区の共同署名活動を終えて－

出席者　（稲葉芳子、伊藤泰子、伊藤廣光、持田千早、篠原和雄、三好康昭）

(4)これからの進め方

司会

これからの運動についてはどうでしょう。先ほど、地域で集まってやれるような体制が作れたらいいな、というのが出ましたが。他にどんな工夫があるでしょうか。

C さん

やはり戸別訪問をやる意味は大きいと思う。全くそういうことに関わらない人が話を聞いてくれて、場合によっては署名してくれる。これはやはり進めていくべきだと思う。関わる人を増やしていく。

D さん

他にやっているところはないですよね、政党なんかでも。皆さんにホントのことを知らせていくというのが大事、テレビのニュースだけだと変な風に感化されてしまうから。

B さん

「9 条のことをやっているな、運動をしているな」ということがわかるように運動が高まっていけば良いなと思う。そのために車で 9 条のことを宣伝して、その後署名活動をやっていけば反応が違うのではないか。テープに吹き込んであれば誰でも出来る。

司会

街宣車ですね。戸別訪問して話をすること自体も一つの宣伝・運動になりますね。

C さん

インパクトが違うと思いますね、顔を見てというのは。スタンディングには 30 人ぐらい来るわけです。そういう人たちにもう少し署名にも参加してもらいたいと思う。知らない人と話をするのは苦手だ、という人には「一緒について来るだけでもいいから」と誘ってみるとか。「そんなに大変ではないんだよ」と言って。

D さん

話をしないといけない、と思うとなかなかね。

E さん

わたしは日数の問題が大きいと思う。新婦人なんかだと、毎月これとこれに出なくてはいけない、というのがある。数が多すぎる。自分の時間がとれない。必要だから、しょうがないから出る、というのが実情。スタンディングと署名行動を合わせるとかすると、もう少し参加する人の数が増えるかな。場所も、変えてもいい。署名しやすい地域に近い所でスタンディングをするとか。毎回ではなくても。

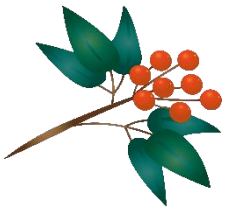
司会

外に出なくても、自分の知人とか親戚に署名用紙を送って、書いてもらって返してもらうとか、戸別訪問でなくてもやれる。「改憲反対運動をする」と構えると大変だけど、署名ぐらいないなら自分でも出来る。自分が出来る行動の一つとしてやっています。他の団体に入っている人は時間的に難しいかもしれないけれど。

C さん
　負荷が集中してしまっているということがあるので。
B さん
　スタンディングのときに事前に署名活動の打ち合わせが出来ていればやれるかも。
司会
　スタンディングの後で打ち合わせしてもいい。地域の人に残ってもらって。
C さん
　その日に行くとなると事前の準備が必要だね。

**(5)他にどんなことがあるでしょうか。**

司会
　最後に、署名の他にこんなことをやってみたいということがありますか。



C さん
　これをやれば効果がある、というのはないですよね。戸別訪問したとき、「難しくてわからない」という人にどういうことをしたら、もう少し理解してくれるのか。パンフも読んでくれれば良いですけれど、なかなかね。
司会
　特効薬的なものはないのでしょうね。
C さん
　やっていくうちに見えてくるかもしれないでしょうが、そこまでは行っていないですね、われわれの活動量が。
B さん
　戸別訪問で私なんか話す内容はそれほど深く広範囲なものになっていないから、学習会というか、わかりやすく話す人がいて簡単に集まれるような場が出来れば、もう少しみんなの中に入っていくのではないかと思うけどね。集まるのは大変だけどね。
司会
　憲法ミニ学習会をこの近くでもやったことがありますが、チケットを買ってもらって、というのではなくて、もっと少人数のね。そういう機会があるといいですね。状況がもっと緊迫してくれば動きも出てくるでしょうが、それまでにもっと裾野をひろげることが必要かな、と思う。
D さん
　知らせることが必要なんですよね。
B さん
　押される前に、こちらから押さなくてはね。
司会
　北海道道議会では改憲の意見書を採択したとか。
A さん
　地方から改憲の動きが強まる。
C さん
　維新も年内に審査会を動かすように、とけしかけていましたからね。
司会
　二年間も署名が続いていると、中だるみの感も無きにしもあらずですが、本当は**これから**ですよね。
　署名活動の後の疲れたところをありがとうございました。　　(おわり)

---

## 19日行動　雨の降るなか元気に実施！

１０月１９日、午後２時の開始と同時に降り出した雨に一瞬、気持ちも萎えましたが、市職労からの青年の参加も手伝って、雨天をもろともせず元気にアピールしました。

**12月の「9の日」地域共同署名行動**
**12月9日(月)午後2時～**
**伊東ふれあいセンター集合**(松川町 5-10)